

2020年9月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2020年8月14日

上場会社名 株式会社ブランジスタ 上場取引所 東
 コード番号 6176 URL <https://www.brangista.com/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 岩本 恵了
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理部長 (氏名) 石原 卓 TEL 03-6415-1183
 四半期報告書提出予定日 2020年8月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年9月期第3四半期の連結業績（2019年10月1日～2020年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年9月期第3四半期	2,110	△16.5	△16	—	△10	—	△412	—
2019年9月期第3四半期	2,526	3.4	386	—	391	—	558	—

(注) 包括利益 2020年9月期第3四半期 △411百万円 (—%) 2019年9月期第3四半期 557百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年9月期第3四半期	△29.35	—
2019年9月期第3四半期	38.64	38.18

(注) 当第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失が計上されているため、記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年9月期第3四半期	3,813	2,339	61.3
2019年9月期	3,627	2,874	79.2

(参考) 自己資本 2020年9月期第3四半期 2,338百万円 2019年9月期 2,873百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年9月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2020年9月期	—	0.00	—	—	—
2020年9月期（予想）	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無
 2020年9月期の配当予想につきましては、現在未定であります。

3. 2020年9月期の連結業績予想（2019年10月1日～2020年9月30日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,800	△17.5	0	—	4	△99.2	△400	—	△28.48

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有
 連結業績予想の修正については、本日（2020年8月14日）公表いたしました「通期連結業績予想の修正及び特別損失の計上に関するお知らせ」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 一社 （社名） 、除外 一社 （社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年9月期3Q	14,575,300株	2019年9月期	14,575,300株
② 期末自己株式数	2020年9月期3Q	655,988株	2019年9月期	450,788株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2020年9月期3Q	14,043,790株	2019年9月期3Q	14,457,148株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の実績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	5
第3四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	6
第3四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)	7
(追加情報)	7
(セグメント情報等)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における我が国の経済は、新型コロナウイルス感染症の影響による急速な悪化が続いており、極めて厳しい状況にありました。政府・各都道府県によって感染拡大の防止策を講じつつ、社会・経済活動のレベルを段階的に引き上げられることが図られており、持ち直しに向かうことが期待されていますが、先行きについては、不透明な状況が続いております。このような状況のもと、当社グループを取り巻く事業環境において、新型コロナウイルス感染症による影響を受けております。

㈱ブランジスタメディアが展開する電子雑誌業務では、当社主力雑誌「旅色」において、外出自粛や休業・営業時間の短縮要請を伴った緊急事態宣言が発出された結果、当社クライアントである宿泊施設、飲食店などの観光・外食業界が影響を受けております。当社においてはテレワークを実施し、感染拡大の防止に努めながら、お取り寄せ特集への広告掲載が対象となる企業に対し、オンラインでの営業活動に力を入れてまいりました。しかしながら、全国8拠点から日本各地のクライアントへ直接訪問する営業活動が困難な状況となった影響が大きく、売上高が減少いたしました。このような状況を踏まえ、現在広告を掲載している飲食店などの支援策として、テイクアウト・デリバリー特集や、テレワークに対応している宿泊施設の特集などを新たに追加するだけでなく、SNSを活用した積極的な情報発信を行い、外出自粛の中でも掲載施設と読者の双方の満足度が高められるよう努めました。

㈱ブランジスタソリューションが展開するソリューション業務では、ECサイトの支援が主な業務であり、対面での商品購入を必要としないECサイトの重要性が増しておりますが、販売する商品によっては影響を受けているクライアントも出ております。

また、新型コロナウイルス感染症の影響により、連結子会社である㈱CrowdLabに係るのれんの減損損失を特別損失に計上いたしました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間におきましては、売上高2,110百万円(前年同四半期比16.5%減)、営業損失16百万円(前年同四半期は営業利益386百万円)、経常損失10百万円(前年同四半期は経常利益391百万円)、親会社株主に帰属する四半期純損失412百万円(前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純利益558百万円)となりました。親会社株主に帰属する四半期純損益においては、2019年9月期は連結子会社の全株式を譲渡したことによる税効果会計による会計処理の影響などの一時的な増益影響があった反動から、前年同四半期を大幅に下回っております。

なお、当社グループは「企業プロモーション支援を目的とした電子メディア事業」の単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しておりますが、売上の内訳を示すと、電子雑誌関連が1,398百万円、ソリューション関連が662百万円、その他子会社が91百万円となりました(注)。

(注) 内部取引消去前の金額であります。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は3,813百万円となり、前連結会計年度末に比べて185百万円の増加となりました。当第3四半期連結会計期間末における資産、負債及び純資産の状況は次のとおりです。

(流動資産)

流動資産は3,309百万円となり、前連結会計年度末に比べて634百万円の増加となりました。これは主に、銀行からの借入により、現金及び預金が756百万円増加したことによるものであります。

(固定資産)

固定資産は504百万円となり、前連結会計年度末に比べて448百万円の減少となりました。これは主に、㈱CrowdLabに係るのれんの減損処理をしたことで無形固定資産が443百万円減少したことによるものであります。

(流動負債)

流動負債は749百万円となり、前連結会計年度末に比べて211百万円の増加となりました。これは主に、銀行からの借入により短期借入金が増加したことや未払法人税等が増加したことによるものであります。

(固定負債)

固定負債は724百万円となり、前連結会計年度末に比べて509百万円の増加となりました。これは、銀行から長期借入を行ったことによるものであります。

(純資産)

純資産合計は2,339百万円となり、前連結会計年度末に比べて534百万円の減少となりました。これは主に、自己株式の取得による102百万円の減少や、親会社株主に帰属する四半期純損失の計上に伴い利益剰余金が412百万円減少したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2020年5月15日公表の「通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」に記載の通り、新型コロナウイルス感染症の拡大による、当社グループへ与える影響について合理的な業績予想の算出が困難であったことから、2020年9月期通期の連結業績予想を未定としておりましたが、当第3四半期連結累計期間の業績及び、現時点で入手可能な情報や予測等を踏まえ、業績予想を算定しました。

当第3四半期(4月～6月)については、緊急事態宣言の発出された結果、当社電子雑誌のクライアントである宿泊施設、飲食店などが影響を受け、当社においても日本全国のクライアントへの直接訪問が困難な状況となり、売上高が減少いたしました。

第4四半期(7月～9月)については、新型コロナウイルス感染症の影響が少なくとも9月末までは続くものと想定しておりますが、第3四半期から当社グループの主力電子雑誌「旅色」のお取り寄せ特集への広告掲載に力を入れていることに加え、緊急事態宣言が解除されたことで、感染拡大の防止に努めながら、従来のような直接訪問による営業活動を再開していることから、第4四半期以降の業績は、緩やかに回復に向かうと予想しております。

なお、上記見通しは、現時点で入手可能な情報に基づいて見積りを行っておりますが、新型コロナウイルス感染症拡大・収束状況及び、その他の事業環境により変動する可能性があります。開示すべき事項が発生した場合には、速やかに開示いたします。

詳細につきましては、本日(2020年8月14日)公表いたしました「通期連結業績予想の修正及び特別損失の計上に関するお知らせ」をご覧ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2019年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	856,436	1,612,998
売掛金	1,918,355	1,869,245
前払費用	28,727	37,682
その他	104,332	18,467
貸倒引当金	△232,993	△229,274
流動資産合計	2,674,857	3,309,120
固定資産		
有形固定資産	19,130	28,414
無形固定資産		
のれん	442,867	—
その他	22,141	21,068
無形固定資産合計	465,008	21,068
投資その他の資産		
繰延税金資産	422,379	418,377
その他	46,536	36,927
投資その他の資産合計	468,916	455,305
固定資産合計	953,055	504,788
資産合計	3,627,913	3,813,908
負債の部		
流動負債		
買掛金	73,252	57,731
短期借入金	190,000	386,666
未払金	83,798	98,153
未払法人税等	14,366	35,134
前受金	40,516	42,967
預り金	10,070	18,158
業績連動賞与引当金	91,633	89,500
その他	34,944	21,530
流動負債合計	538,581	749,844
固定負債		
長期借入金	215,000	724,444
固定負債合計	215,000	724,444
負債合計	753,581	1,474,289
純資産の部		
株主資本		
資本金	621,052	621,052
資本剰余金	1,042,637	1,021,801
利益剰余金	1,602,433	1,190,265
自己株式	△391,323	△494,114
株主資本合計	2,874,800	2,339,005
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△1,457	△374
その他の包括利益累計額合計	△1,457	△374
新株予約権	989	989
純資産合計	2,874,331	2,339,619
負債純資産合計	3,627,913	3,813,908

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2018年10月1日 至2019年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自2019年10月1日 至2020年6月30日)
売上高	2,526,841	2,110,514
売上原価	655,093	564,290
売上総利益	1,871,747	1,546,223
販売費及び一般管理費	1,485,493	1,562,246
営業利益又は営業損失(△)	386,254	△16,023
営業外収益		
受取利息	10	10
投資有価証券売却益	—	3,385
転籍関連収入	708	—
雑収入	4,780	5,625
営業外収益合計	5,499	9,020
営業外費用		
支払利息	620	2,154
自己株式取得費用	35	1,026
為替差損	50	88
営業外費用合計	706	3,269
経常利益又は経常損失(△)	391,047	△10,271
特別利益		
固定資産売却益	85	—
特別利益合計	85	—
特別損失		
固定資産除却損	12	0
事業再編損	30,896	—
減損損失	—	364,714
新型コロナウイルス感染症による損失	—	2,958
特別損失合計	30,909	367,672
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	360,223	△377,943
法人税、住民税及び事業税	161,127	30,221
法人税等調整額	△359,587	4,002
法人税等合計	△198,460	34,223
四半期純利益又は四半期純損失(△)	558,683	△412,167
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	558,683	△412,167

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年10月1日 至 2019年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年10月1日 至 2020年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	558,683	△412,167
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△1,315	1,083
その他の包括利益合計	△1,315	1,083
四半期包括利益	557,367	△411,084
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	557,367	△411,084
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)

該当事項はありません。

なお、特定子会社の異動には該当していませんが、当第3四半期連結会計期間において、新設分割により新たに設立した㈱ブランジスタメディアを連結の範囲に含めております。また、非連結子会社であった㈱ブランジスタソリューションについても、当社グループにおける重要性が増したため、当第3四半期連結会計期間より連結の範囲に含めております。

(追加情報)

(連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用)

当社及び一部の連結子会社は、「所得税法等の一部を改正する法律」(令和2年法律第8号)において創設されたグループ通算制度への移行及びグループ通算制度への移行にあわせて単体納税制度の見直しが行われた項目については、「連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用に関する取扱い」(実務対応報告第39号 2020年3月31日)第3項の取扱いにより、「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 2018年2月16日)第44項の定めを適用せず、繰延税金資産及び繰延税金負債の額について、改正前の税法の規定に基づいております。

(新型コロナウイルス感染症拡大に伴う会計上の見積りについて)

当社電子雑誌「旅色」の広告クライアントには、特に影響を受けやすい飲食業や宿泊業も多数含まれております。現時点において入金状況や倒産状況に大きな変化は見られておらず、当第3四半期連結財務諸表作成時点までの債権回収状況を踏まえ、貸倒引当金の見積りを行っております。しかしながら、影響が長引いた場合、これらの状況が悪化することが懸念されます。

また、固定資産の減損会計及び税効果会計の適用等は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響が一定期間続くものの、第4四半期以降緩やかに正常化するとの仮定に基づき会計上の見積りを行っております。

なお、現時点で入手可能な情報に基づいて見積りを行っておりますが、新型コロナウイルス感染症の感染状況や経済環境への影響が変化した場合には、当社グループの財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に影響を与える可能性があります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループは、「企業プロモーション支援を目的とした電子メディア事業」の単一セグメントであるため、セグメント情報の記載を省略しております。